



東北メディカル・メガバンク機構 勉強会のご案内

アレルギー性疾患とビオチン 代謝異常症の遺伝疫学

講師：鈴木 洋一 先生（千葉大学大学院医学研究院
環境医学講座公衆衛生学 准教授）

喘息、アトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患は多因子遺伝子病であるが、この10年間で、多因子遺伝子病の解析に関する状況は劇的に変化してきた。我々の研究もその変化に合わせ、罹患同胞対解析、様々な候補遺伝子の症例対照研究、ゲノムワイド相関解析（GWAS）を行ってきた。小学生一般集団の横断的研究からは、CD14 遺伝子などの遺伝的背景によって、小学生時点での血清 IgE 値へ幼稚園通園の有無が与える影響が異なってくること、すなわち遺伝環境相互作用の存在が示唆された。近年 GWAS からゲノムワイドに有意な感受性遺伝子が同定されてきたが、疾患発症リスクへ与える影響は期待したより小さいものであった。今後は、頻度の低い遺伝子多型、epigenetics、遺伝環境相互作用など、これまで以上に高度な解析が求められていくものと思われる。

先天性のビオチン代謝異常症は、稀な単一遺伝子病である。我々はホロカルボキシラーゼ合成酵素(HCS)が本症の原因であることを突き止め、本症の臨床診断、遺伝子診断に長く関わってきた。ビオチン代謝異常の症状を示す乳児が2000年以降増えてきたが、遺伝子変異は見いだされなかった。これは、ビオチン含有量が低い低アレルギー性ミルクを飲むアレルギー性疾患の児が増えたためであった。ビオチン代謝異常症の頻度調査を行ったところ、10年間の栄養性ビオチン欠乏症は70例、HCS欠損症は10例発生していた。ビオチン代謝異常は非常にありふれた疾患と非常に稀な疾患の意外な接点となっていた。

2012.7.19 [木] 9:00 - 10:00

*開始時間が少し遅れる場合がございます。予めご了承下さい。

会 場 | 星陵キャンパス 医学部1号館2階 大会議室
主 催 | 東北メディカル・メガバンク機構

お問い合わせ | 東北メディカル・メガバンク機構 事務管理・広報部門 広報担当

TEL: 022-717-7902 FAX: 022-717-7923 E-Mail: pr@megabank.tohoku.ac.jp